

科目名	基礎疫学	code number : EPI 201	必修	4 単位
-----	------	--------------------------	----	------

科目責任者	矢野 榮二 教授						
配当年次	1年次	配当学期	前期	曜日・時限	木曜 3,4時限	授業方法	講義・演習

1. 授業の概要							
<p>疫学研究方法論の基礎について学ぶ。問題解決の基礎としての疫学であることを認識したうえで、因果関係の立証法、記述疫学研究と仮説検証研究(観察研究と介入研究)の違いといった研究の分類を学ぶ。観察研究では横断研究、縦断研究(コホート研究、症例対照研究)における疫学指標、各種バイアス、研究デザイン上の特徴について学ぶ。また、介入研究では無作為化比較試験を含む患者臨床試験についてその構造や疫学指標について、システムティックレビュー、メタアナリシスについてもその構造や問題となる各種バイアスについて学ぶ。疫学研究の倫理指針(同意・個人情報保護を含む)にもふれる。なお各日、講義の後半は演習にあて、練習問題や質疑を通して理解を確実なものにする。</p>							
2. 授業の到達目標							
<p>【一般目標(GIO)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療問題を解決するための基礎的な論理である疫学を学び、論理的な問題解決の道筋を理解する。 2. 疫学研究の主要なタイプを学ぶとともに、誤った判断のメカニズムをタイプ分けして理解する。 3. 疫学研究論文を批判的に精読する技法を学び、疫学研究立案の体系を修得する。 <p>【行動目標(SBO)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分が解決しようとする保健医療問題について、問題の本質を定式化して述べるができる。 2. 問題とその解決のための対策を具体的に測定評価できる。 3. 研究論文等における推論の誤りを見抜き、その防護策を提示できる。 4. 問題解決につながる疫学研究を計画立案し、実施できる。 							
<p>期末テスト(90分筆記)の得点率6割以上をもって合格とする。 ただし、期末テストの粗点は講義の欠席回数に応じて2割まで減点し、講義への積極的な参加度に応じて1割まで加点する。</p>							
4. 教科書・テキスト							
<ul style="list-style-type: none"> ・ケースで学ぶ公衆衛生学 第2版 篠原出版新社(疫学部分の縮刷版を配布予定) 							
5. 参考書							
<ul style="list-style-type: none"> ・「医学的研究のデザイン」木原雅子他訳 メディカルサイエンスインターナショナル ・「ロスマンの疫学」第2版 Kenneth J. Rothman著 篠原出版新社 							
6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間							
<ul style="list-style-type: none"> ・教材の該当箇所を事前に読んでおくこと。 ・講義ごとに3時間以上の予復習が必要。 							
7. その他履修上の注意事項							
<ul style="list-style-type: none"> ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。 							

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	4/13(木)	3-4	矢野 榮二 教授 桑原 恵介 講師	医学と疫学：今日の医学の主流である生物医学的考え方と対比しつつ疫学的考え方の位置づけを学ぶ。
2	4/20(木)	3-4	矢野 榮二 教授 桑原 恵介 講師	仮説と因果関係：科学的思考の基礎として仮説の一般構造を考え、それを証明する因果関係の考え方を学ぶ。
3	4/27(木)	3-4	矢野 榮二 教授 桑原 恵介 講師	疫学研究の分類：仮説を証明する論理的方法として疫学研究のタイプ分けを学ぶ。
4	5/11(木)	3-4	山岡 和枝 教授	疫学と統計学：疫学で用いられる主要な統計手法を学ぶ。
5	5/18(木)	3-4	矢野 榮二 教授 桑原 恵介 講師	チャンスとバイアス：誤った判断を引き起こす原因を分類し、そのうちのバイアスのタイプ分けを学ぶ。
6	5/25(木)	3-4	福田 吉治 教授	健康指標：疫学で用いられる健康指標の定義、算出方法、活用法について学ぶ。
7	6/1(木)	3-4	福田 吉治 教授 桑原 恵介 講師	記述疫学と横断研究：記述疫学と横断研究の手法、利点と欠点、実例を学ぶ。
8	6/8(木)	3-4	福田 吉治 教授 桑原 恵介 講師	症例対照研究：症例対照研究(case-control study)の手法、利点と欠点、実例を学ぶ。
9	6/15(木)	3-4	福田 吉治 教授 桑原 恵介 講師	コホート研究：コホート研究(cohort study)の手法、利点と欠点、実例を学ぶ。
10	6/22(木)	3	山岡 和枝 教授 桑原 恵介 講師	介入試験、無作為比較対象試験：介入試験(intervention study)および無作為比較対象試験(RCT)の方法と実例を学ぶ。
		4	福田 吉治 教授 桑原 恵介 講師	
11	6/30(金)	3-4	山岡 和枝 教授 桑原 恵介 講師	メタアナリシス：メタアナリシス(metaanalysis)・システマティックレビュー(系統的レビュー)の手法と実例を学ぶ。
12	7/6(木)	3-4	野村 恭子 准教授 桑原 恵介 講師	スクリーニング：スクリーニングの考え方、信頼性、応用について学ぶ。
13	7/13(木)	3-4	矢野 榮二 教授 桑原 恵介 講師	Study Critique：疫学研究・論文の批判的吟味の考え方と方法を学ぶ。
14	7/20(木)	3-4	矢野 榮二 教授 桑原 恵介 講師	疫学研究計画立案：具体的な研究計画の立案手法を学び、実際の計画の立案を行う。
15	7/27(木)	3-4	矢野 榮二 教授 桑原 恵介 講師	疫学と公衆衛生：まとめのために問題演習を行い、学習の確認をする。

科目名	臨床疫学	code number : EPI 221	選択	4 単位
------------	-------------	--------------------------	----	------

科目責任者	矢野 榮二 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	後期	曜日・時限	木曜 3,4時限	授業方法	講義・演習

1. 授業の概要							
<p>科学的な保健医療(Evidence Based Public Health)の実践のために、疫学を臨床医学に適用した臨床疫学を学ぶ。ここでは現場実践上のプロセスから生じるテーマ(異常、診断、頻度、リスク、予後、治療、予防)に基づきアプローチし、データの取り扱い・異常の判断基準、検査の有効性(感度、特異度、事後確率、ROC曲線)、リスクの評価、研究デザインとバイアス、臨床研究で用いられる統計解析結果の解釈(ロジスティック回帰分析、生存分析)、ランダム化比較試験、論文検索(系統的レビュー、コクランライブラリー)、臨床データ管理、臨床ガイドラインの検索と利用法、などについて、Fletcherの教科書を読みながら実例を用いて学習する。実例は教科書内のコラムや教員が示すものを用いる。</p> <p>毎回の講義は3部構成を基本とし、第1部に教科書を用いて学習し、第2部は教科書の巻末問題を議論する。第3部は担当学生が前週までに紹介した疫学論文を用い、論文の批判的精読(スタディクリティーク)を担当学生の司会で行う。その議論のために学生は各自またはグループで講義の2日前までに形式にのっとった論文精読解析レポートを提出する。講義には小グループでの討論を取り入れ、そこでの積極参加を重視する。なおスタディクリティークは別に独立の科目としてもあるので、合わせて履修することが望ましい。取り扱う話題は臨床医学上のものが多いがそれに限定せず、受講も医療関係者に限るものでなく、逆に非医療者が臨床医学の現場での思考方法に触れる機会にもなる。</p>							
2. 授業の到達目標							
<p>【一般目標(GIO)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床医学を中心にした保健医療の現場での実例について判断の論理と誤った判断のメカニズムを理解する。 2. 現場の意思決定において疫学の論理を適用する必要性を学ぶ。 3. 疫学研究論文を批判的に精読する技法を修得する。 <p>【行動目標(SBO)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床医学を中心にした保健医療の現場の実際場面で疫学の論理に従った判断ができる。 2. 臨床医学を中心にした保健医療の現場の実際場面で誤った判断を指摘できる。 3. 疫学研究論文を批判的に精読できる。 4. 臨床研究を計画立案できる。 							
3. 成績評価の方法および基準							
<p>(1) 各回の講義出席と論文解析レポート提出(グループ提出も可) (80%)</p> <p>(2) 論文選択と全体での検討会の司会 (20%)</p>							
4. 教科書・テキスト							
<p>Clinical Epidemiology: The Essentials 5th edition Robert H. Fletcher, Suzanne W. Fletcher Lippincott Williams & Wilkins, 2012 - 255 pg.・「臨床疫学」ロバート・H・フレッチャー他著 メディカルサイエンスインターナショナル</p>							
5. 参考書							
<ul style="list-style-type: none"> ・「医学的研究のデザイン」木原雅子他訳 メディカルサイエンスインターナショナル ・「ロスマンの疫学」第2版 Kenneth J. Rothman著 篠原出版新社 							
6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間							
<ul style="list-style-type: none"> ・教材の該当箇所を事前に読んでおくこと。 ・スタディクリティーク分担当者は各自の課題研究テーマに関連した疫学研究論文を前週までに提示し、講義当日までに他の受講者のスタディ・クリティークの内容を整理し論評する。 ・講義ごとに3時間以上の予復習が必要。 							
7. その他履修上の注意事項							
<ul style="list-style-type: none"> ・レポートに対し、講義中での解説等のフィードバックを行う。 ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。 							

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	9/21(木)	3-4	矢野 榮二 教授 桑原 恵介 講師	臨床疫学序論 臨床疫学、根拠に基づいた医療のアウトラインについて学ぶ。 臨床疫学研究に関する基本的な知識を再確認するとともに、全体のコースの流れを確認する。
2	9/28(木)	3-4	矢野 榮二 教授 桑原 恵介 講師	頻度 頻度について、表し方、取得方法、妥当性に関する解釈などを学ぶ。
3	10/5(木)	3-4	矢野 榮二 教授 桑原 恵介 講師	異常 データの種類、測定性能・変動、異常の判定基準等について学ぶ。
4	10/12(木)	3-4	福田 吉治 教授 桑原 恵介 講師	リスク:基礎的な概念 リスクの認知、予測、評価及びその応用について学ぶ。
5	10/19(木)	3-4	福田 吉治 教授 桑原 恵介 講師	リスク:曝露から疾患 コホート研究を中心に、集団を前向きに観察することにより、リスクを評価する方法及び交絡について学ぶ。
6	10/26(木)	3-4	福田 吉治 教授 桑原 恵介 講師	リスク:疾患から曝露 症例対照研究を中心に、時間をさかのぼって観察することにより、リスクを評価する方法やオッズ比について学ぶ。
7	11/2(木)	3-4	福田 吉治 教授 桑原 恵介 講師	予後 疾患の転帰としての予後の評価方法について学ぶ。
8	11/9(木)	3-4	大脇 和宏 講師(非) 矢野 榮二 教授 桑原 恵介 講師	診断 検査の正確さ、感度、特異度、予測値、尤度、繰り返し検査の評価について学ぶ。
9	11/16(木)	3-4	谷原 真一 教授 桑原 恵介 講師	治療 仮説の検定、介入研究など治療が有効であるかの判断、特にランダム化比較試験を解釈する上で必要となる知識について学ぶ。
10	11/24(金)	3-4	矢野 榮二 教授 桑原 恵介 講師	予防 予防に関連する原理・戦略方法について学ぶ。
11	11/30(木)	3-4	谷原 真一 教授 桑原 恵介 講師	偶然 仮説検定、必要標本数、信頼区間、多重比較、サブグループ解析、多変量解析、ベイズ理論について学ぶ。
12	12/7(木)	3-4	矢野 榮二 教授 桑原 恵介 講師	因果 因果関係の基本原則、因果関係を支持または否定する根拠について学ぶ。
13	12/14(木)	3-4	矢野 榮二 教授 桑原 恵介 講師	エビデンスの集約 システムティック・レビューの方法、メタ分析、エビデンスの内容を吟味する方法について学ぶ。
14	12/21(木)	3-4	矢野 榮二 教授 桑原 恵介 講師	知識管理 臨床の知識管理に対する最新のアプローチ、臨床診療ガイドラインの利用法などについて学ぶ。
15	12/28(木)	3-4	矢野 榮二 教授 桑原 恵介 講師	全体のまとめ、予備日

科目名	質的研究	code number : EPI 241	選択	1 単位
-----	------	--------------------------	----	------

科目責任者	高橋 謙造 准教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	夏季(8-9月)	曜日・時限	4日間	授業方法	講義

1. 授業の概要

地域保健に関する研究において、

- 1) 科学的な質的研究法についての知識の習得
- 2) 研究課題に即した情報提供者からの情報収集とテキスト解釈方法についての知識および技術の習得
- 3) 公衆衛生専門家として課題発見、解決、研究活動を行うことができるようになることをめざし、質的研究に関して講師および受講生同士でディスカッションを行う。

2. 授業の到達目標

【一般目標 (GIO)】

1. 地域における健康と保健・医療に関する課題の発見、コミュニティづくり、ステークホルダーと協働した問題解決を行うのに必要な、質的研究方法についての理論的知識、実践能力、および研究手法を習得する。

【行動目標 (SBO)】

1. 質的な研究手法の、量的な研究法との関連を説明できる。
2. 実際のインタビュー素材を用いて、質的な分析を行うことができる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) 授業への積極的な参加 (50%)
- (2) レポート提出評価 (50%)

4. 教科書・テキスト

特に指定しない。

5. 参考書

1. 質的研究を科学する(高木廣文) 医学書院
2. 質的研究実践ガイド(キャサリン・ホープ、ニコラス・メイス) 医学書院
3. グラウンデッド・セオリー・アプローチ分析ワークブック 第2版(戈木クレイグヒル滋子編) 日本看護協会出版会
4. 新版 質的研究入門<人間の科学>のための方法論(ウヴェ・フリック) 春秋社+B28

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・履修学生に事前に配布する。
- ・当該期間に8時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

質的研究

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	8/10(木)	3	高橋 謙造 准教授 高木 廣文 講師(非)	質的研究概論(混合研究法・疫学調査・質的調査)
2	8/10(木)	4	高木 廣文 講師(非)	質的研究と量的研究
3	8/11(金)	3	高木 廣文 講師(非)	さまざまな質的研究の方法について
4	8/11(金)	4	高木 廣文 講師(非)	質的研究の科学性に関する諸問題
5	8/14(月)	3	高木 廣文 講師(非)	質的研究のテキスト解釈に関する諸問題
6	8/14(月)	4	高木 廣文 講師(非)	グラウンデッド・セオリー・アプローチによるテキスト解釈(原則編)
7	8/15(火)	3	高木 廣文 講師(非)	グラウンデッド・セオリー・アプローチによるテキスト解釈(実践編)
8	8/15(火)	4	高木 廣文 講師(非)	発表・討論・まとめ

科目名	スタディクリティーク	code number : EPI 301	選択	2 単位
-----	------------	--------------------------	----	------

科目責任者	野村 恭子 准教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	通年	曜日・時限	木曜 5 時限	授業方法	演習

1. 授業の概要

Study Critiqueとは日本語で批判的吟味を意味する。我々が必要な情報について科学的根拠を得るときに読む疫学論文は、結果を鵜呑みにするのではなく、何が正しく、またどこに弱点(バイアスやチャンス)がかかっているのか整理しながら情報を取捨選択しなければならない。本科目では、海外の一流雑誌New England Journal of Medicine, British Medical Journal, JAMAなどに掲載された疫学研究を批判的に読み解きエビデンスについて学ぶ。用いる論文は、歴史的に有名な疫学論文から最新の論文、あるいは参加者の希望する論文をも扱う。なお本科目は本学の女性医師・研究者支援センターが開催しているジャーナルクラブと合同で開催する。場所は病院6階医局内の女性医師・研究者支援センターにて行うので、医局の入り口で女性センターの内線(34670-2)を鳴らすようにしてください。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1.疫学研究論文を実際に読んで討論し、論文を批判的に吟味する能力を実践的に習得する。

【行動目標(SBO)】

1.各種疫学研究の技法を修得し、研究論文の批判的吟味と研究計画立案の方法を学ぶ。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) 授業への積極的な参加 (50%)
- (2) 演習の課題 (50%)

4. 教科書・テキスト

・毎回事前配布する。

5. 参考書

- ・「医学的研究のデザイン」木原雅子他訳 メディカルサイエンスインターナショナル
- ・「疫学」木原正博他訳 メディカルサイエンスインターナショナル

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・毎回事前配布される論文を事前に読んでおくこと。
- ・講義ごとに30分程度の予習が重要。

7. その他履修上の注意事項

- ・演習の課題に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

スタディクリティーク

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	4/13(木)	5	野村 恭子 准教授	オリエンテーションと批判的吟味の方法
2	5/11(木)	5	野村 恭子 准教授	横断研究の批判的吟味の方法
3	5/25(木)	5	野村 恭子 准教授	ケースコントロール研究の批判的吟味の方法
4	6/8(木)	5	野村 恭子 准教授	コホート研究の批判的吟味の方法
5	6/22(木)	5	野村 恭子 准教授	ランダム化比較試験の批判的吟味の方法
6	7/13(木)	5	野村 恭子 准教授	メタアナリシスの批判的吟味の方法
7	9/7(木)	5	野村 恭子 准教授	ゲストによる批判的吟味
8	9/21(木)	5	野村 恭子 准教授	トップジャーナルに掲載された疫学研究の批判的吟味を持ち回りで行う。
9	10/5(木)	5	野村 恭子 准教授	Study Critique
10	10/19(木)	5	野村 恭子 准教授	ゲストによる批判的吟味
11	11/2(木)	5	野村 恭子 准教授	トップジャーナルに掲載された疫学研究の批判的吟味を持ち回りで行う。
12	11/16(木)	5	野村 恭子 准教授	ゲストによる批判的吟味
13	11/30(木)	5	野村 恭子 准教授	トップジャーナルに掲載された疫学研究の批判的吟味を持ち回りで行う。
14	12/7(木)	5	野村 恭子 准教授	Study Critique
15	12/21(木)	5	野村 恭子 准教授	トップジャーナルに掲載された疫学研究の批判的吟味を持ち回りで行う。

科目名	リスク科学	code number : OEH 251	選択	1 単位
-----	-------	--------------------------	----	------

科目責任者	矢野 榮二 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	後期(後半)	曜日・時限	月曜 1時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

人々の健康問題の解決をめざす公衆衛生活動は、見方を変えれば健康リスクの把握と対処と考えられる。健康リスクの把握には疫学の体系が必須であるが、特に対処についてはリスク科学から学べるところが大きい。リスク科学の基本となる米科学アカデミーの体系的なリスクアセスメント・リスクマネジメントの考え方を出発点とし、教員から提示されるいくつかの例を参考にしつつ、学生が各自の課題の問題解決にリスク科学の考え方や方法を適用できるようにする。

2. 授業の到達目標

【一般目標 (GIO)】

1. リスク概念の基本であるリスクアセスメントとリスクマネジメントの関係を理解する。
2. リスクの把握にあたって、情報の不確かさとその対処法を理解し、リスクを質的だけでなく量的視点で把握し、代替策のリスクも考慮することの重要性を理解する。
3. 専門家としてリスク対処を進めていくうえで核となるリスクコミュニケーションを自分の課題研究のテーマにあてはめることができる。

【行動目標 (SBO)】

1. リスクアセスメントとリスクマネジメントの違いとその相互関係を説明できる。
2. リスクの把握にあたって、情報の不確かさとその対処法を説明できる。
3. 質的だけでなく量的視点を持ち、代替策のリスクも評価することができる。
4. リスクコミュニケーションの基本概念と手法を理解し、自分の課題研究のテーマにあてはめ説明できる。

3. 成績評価の方法および基準

講義中に求められる各自の課題のリスク科学を踏まえた報告で評価する(100%)

4. 教科書・テキスト

- ・ FDA Communicating Risks and Benefits: An Evidence-Based User's Guide Food and Drug Administration (日本語訳有)
<http://www.fda.gov/downloads/AboutFDA/ReportsManualsForms/Reports/UCM268069.pdf>
- ・ Making Health Communication Programs Work, National Cancer Institute (NCI) (日本語訳有)
<https://www.cancer.gov/publications/health-communication/pink-book.pdf>

5. 参考書

- ・ Risk Assessment in the Federal Government. the National Research Council
<https://www.nap.edu/catalog/366/risk-assessment-in-the-federal-government-managing-the-process> (Free download 可能)

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・ 基礎疫学(2016年までは疫学概論)の単位を修得していることが履修の要件
- ・ 講義ごとに3時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・ 試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・ この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

リスク科学

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	11/13(月)	1	矢野 榮二 教授	低線量放射線の健康影響:問題提起
2	11/20(月)	1	矢野 榮二 教授	リスクアセスメントとリスクマネジメント:許容濃度を例として
3	11/27(月)	1	谷原 真一 教授	危機管理体制・危機発生時の緊急時対応のあり方
4	12/4(月)	1	福田 吉治 教授	感染症・食中毒
5	12/11(月)	1	矢野 榮二 教授	Precautionary Principleと代替策のリスク
6	12/18(月)	1	原 邦夫 教授	労働災害
7	12/25(月)	1	矢野 榮二 教授	リスク科学と意思決定
8	2/5(月)	1	矢野 榮二 教授	リスクコミュニケーション

M
P
H

科目名	特別講義(疫学Ⅰ～Ⅲ) ^(※)	code number : EPI 401～403 ^(※)	選択	1 単位
-----	----------------------------	---	----	------

科目責任者	Murry Mittleman 客員教授 ^(※)						
配当年次	1・2年次	配当学期	冬季(1-2月)	曜日・時限	4日間	授業方法	集中講義

1. 授業の概要

取り上げる主な主題には次のようなものがある。考え方は生物医学的・公衆衛生学的論文の批判的精読を通して論じられる。

- ・疫学研究の解釈: 関連性と因果性の概念; a研究結果の別の角度からの説明(偶然、バイアス、交絡を含む); 因果成立の条件
- ・疫学研究デザインの方法: 各方法の特徴、長所、限界。記述研究、観察研究(症例対照研究、コホート研究)無作為化臨床試験
- ・疾病頻度の指標、関連の指標: 疾病頻度指標(有病率、累積発生率、罹患率)と関連指標(相対危険度、寄与危険度)の特徴及び指標の利用法・解釈・相互関係。
- ・スクリーニング: スクリーニングテストの有効性(感度、特異度); スクリーニング事業の有用性(適中度); スクリーニング事業の解釈におけるバイアスの原因

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 疫学は臨床や公衆衛生上の問題への量的な対処法を示す公衆衛生と臨床医学の基礎となる科学であることを理解し、基礎的な疫学の理論と方法を理解する。
2. 疫学を公衆衛生学的課題評価にどう適用するか理解する。
3. 疫学的臨床論文の批判的精読の進め方を学ぶ。

【行動目標(SBO)】

1. 疾病のリスク要因である可能性のあるものを見つけ、検証するために疫学的な結果を解釈できる。
2. 疾患(アウトカム)の指標、関連の指標、研究デザインの選択、バイアス、交絡、効果の修飾などの疫学の基礎理論と方法を説明できる。
3. 公衆衛生や医学の論文を批判的に読み、現場での実務に利用できる。
4. 公衆衛生や臨床上の問題に取り組む有効で効果的な手順を立案することができる。

最終試験の点数で評価し、60%以上を合格とするが、授業への積極的な関与で10%程度加算する。

4. 教科書・テキスト

・Hennekens CH, Buring JE. Epidemiology in Medicine. Boston; Little, Brown and Company. 1987.

5. 参考書

・講義で紹介する。

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・事前に講義用資料が専用HP上に公開される。
- ・当該期間に8時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・各回終了後には、日本人教員による補講が行われる。
- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。
- (※)年度により開講内容が異なる場合があり、Ⅰ～Ⅲのいずれかを開講する。
- (※)担当教員については変更となる場合があるが、その場合は記載がある予定教員と同等レベルの教員が任命される。
- (※)また、具体的な授業日時、授業内容については毎年9月-10月頃に設定され、決まり次第学生に対して通知する。

<授業計画>

特別講義(疫学Ⅰ～Ⅲ)(※)

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	1/15(月)	1	Murry Mittleman 教授(客)	導入と授業の目的 疫学研究の解釈: 関連と因果
2	1/15(月)	2	Murry Mittleman 教授(客)	疫学研究のデザイン法: 記述研究と分析研究の概要
3	1/16(火)	1	Murry Mittleman 教授(客)	疾患頻度の指標
4	1/16(火)	2	Murry Mittleman 教授(客)	関連の指標
5	1/17(水)	1	Murry Mittleman 教授(客)	介入研究: 無作為化臨床試験
6	1/17(水)	2	Murry Mittleman 教授(客)	特論 ・信頼区間 / ・効果修飾
7	1/18(木)	1	Murry Mittleman 教授(客)	疾患対策のためのスクリーニング
8	1/18(木)	2	Murry Mittleman 教授(客)	疫学研究の批判的検討

M
P
H